



霞ヶ関中だより

＜学校教育目標＞自主の誇りを持ち、未来を拓く力を持った生徒の育成
＜6月の生活のめあて＞学習、部活動に集中して取り組もう
気候や体調に適した身だしなみを意識して過ごそう
6月号 令和7年6月3日（火）

最後まであきらめない ～感動の体育祭を今後に生かす～

校長 守岡 信一

5月20日（火）中間テスト2日目終了。解放感に満ちた雰囲気の中、体育祭色別の結団式が行われました。結団式後、さっそく気合の入った団パフォーマンスの練習が始まりました。振り付けと掛け声を合わせ、全身で、この瞬間を楽しんでいる姿を見て私はとてもうれしくなりました。コロナ禍では制限されていたこのような体育的な活動ができ、異年齢活動の充実が図れることは、生徒たちの心も豊かに潤してくれるように思います。1学期も半ばを過ぎました。1学期末には、生徒・学級はどのように成長しているのでしょうか。仲間とともに自分の可能性をさらに広げてほしいと心から願っています。

6月2日（月）、盛大に体育祭を開催することができました。（5/30から雨天順延）

今年度の体育祭スローガンは「闘志を燃やせ!! ～この一瞬にすべてをかけて～」でした。勝利を目指しクラスや団の仲間と協力する、結果だけではなく過程も楽しむ、など様々な挑戦を想起させるこのスローガンは、シンプルであると同時にとても美しいと感じます。

私は、開会式で生徒たちに「真剣に取り組み、最後まで諦めない」「競技には勝ち負けがあるが相手にも大きな声援を」という話をしました。最後まで諦めない姿は感動を与え、本気で競い合うことができるのは仲間の存在があってこそ、そして支えてくれている保護者や地域の方々などのおかげで体育祭が開催できるということ、そのような人たちへの感謝の気持ちを忘れないでほしいと思ったからです。

開会式では吹奏楽部の演奏による入場行進、代表生徒による力強い選手宣誓はとても素晴らしいものでした。各競技も見応えがありました。1学年種目「因幡の白兎」では、兎役生徒のため、声を掛け合って素早く列を整えていました。2学年種目「台風の目」では、回転に振り回されそうになりながらも、できるだけ小さく回ろうと並び方を工夫していました。3学年種目「中ムカデ」では、掛け声や足の上げ方を工夫していました。このような学年種目は、走ることが得意な生徒でもゴールするのに手間取ってしまうこともあります。そのような選手たちにも、応援席の仲間や保護者の方々から温かい拍手が送られていたことも素敵だなと思いました。クラスの代表が競い合う各リレー種目では、やはり3年生のスピードと力強さが印象に残りました。さらに、「学級対抗リレー」（全員リレー）はクラスの団結の結晶のような競技です。この種目に勝利するために、クラスで一丸となり、何度も話し合いを重ね、バトンの練習してきたはずです。疲れていても歯を食いしばり、最後まで諦めずに全力で走る生徒たちの姿に私も目頭が熱くなりました。また「大縄跳び」では担任を含め全員で大きな声を出し、心を合わせ、励まし合いながら最後の一秒まで全力で跳び続けました。まさに、「真剣に、最後まで諦めない」霞中生のすばらしい姿でした。本校の生徒たちは、仲間との絆を確実に育みながら、心豊かに成長しています。その様子が体育祭を通して、少しでもお伝えできたと思います。今後も、生徒一人一人がさらに豊かに成長するため、家庭・学校・地域で想いを共有しながら教育活動を前に進めていきたいと思います。今後とも、皆様方のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。